

第1回 東京都北区在宅介護医療連携推進会議要点記録

開催日時 平成27年5月27日（水）午後2時00分～3時30分

開催場所 北とぴあ 14階 スカイホール

1 開 会

2 あいさつ

藤原佳典 委員長

3 要綱について 改正点の説明があった

第2条

(3) 連携評価の基準の検討（追加）

(5) 在宅療養資源についての分析検討（追加）

(6) 摂食えん下機能支援推進の検討（名称変更）

第7条

(1) 連携事業評価部会（追加）

(3) 在宅療養資源検討部会（追加）

(4) 摂食えん下機能支援推進部会（名称変更）

別表（第3条関係）

高齢者あんしんセンターサポート医 5名（変更）

4 委員紹介

5 会議の公開について

会議は公開とする。検討部会は、昨年度と同様に非公開とすることが決定された。

6 議事

①「在宅療養支援のあり方と今後の取組みについて」（案）

②「介護と医療の連携による地域包括ケアの推進事業」成果報告書（案）について了承された。

・サポート医の事業の訪問相談、受診相談の事例は、25年度に比べると26年度の訪問事例が減っているが、ある程度掘り起こされて、初年度に比べると大分解決が進んでいるという解釈か。

・顔の見える関係で直接アプローチできる関係性ができてきた。

・以前の大変なケースは対応終了し、難しいケースに関して、個々の数字に上

がっている。

- ・介護医療連携共通シートが、上手に使えてないのが状況だが、区全体としてはどうか。
- ・モデル試行の期間中に、主任ケアマネジャーに協力を仰ぎ、協力関係機関とのやり取りを設定したが、事例数が少なかった。
4月に在宅療養あんしんマップの紹介とともに、事業者研修会で紹介し在宅療養あんしんマップと一緒に活用するよう周知した。
- ・入院前在宅生活状況提供書は、在宅療養協力支援病床を利用する際に活用している。
- ・成果報告書について気づいた点は、6月5日までに意見を事務局へ連絡する。
今後の予定として、区民への周知は、6月の健康福祉委員会等で報告。
冊子については、高齢者あんしんセンター、図書館等で閲覧。
北区ホームページにもアップして、ダウンロードできるようにする。

③検討部会の設置について

連携事業評価検討部会（新規）、在宅療養資源検討部会（新規）、認知症疾患医療介護推進部会（継続）、摂食えん下機能支援推進部会（継続）承認。

7 報告

①在宅介護医療連携推進会議・検討部会のスケジュールについて

在宅介護医療連携推進会議の本体は2回。5月のこの会と、2月ごろを予定。

検討部会を、6月から開始し、おおむね2～3回の開催予定。

摂食嚥下機能支援推進部会は、研修会と講演会を今年度は予定。

区民向け啓発講座は、介護あんしんフェアが11月22日に予定。

- ・この摂食えん下の講演会は、どの程度の規模のものを予定されているのか。
- ・研修会に関しては、介護関係者の方の口腔内・摂食えん下に関するチェックリストを作成し、具体的に実習など人数を絞って実施したい。
- ・最終的にはチェックリストを活用したパンフレットやチラシを作成したい。区民の方向けも、少人数で具体的に実習も含めたところを検討したい。
- ・区民向け啓発講座というのは、年1回では少ない。行政主催で年に3回位はしないと、区民の方の関心を得ないと思うが、いかがか。

- ・摂食えん下に関する講座は、今年度は試みと考えている。また検討部会の中でも内容を確認しながら、回数も検討する。

②在宅療養相談窓口のモデル実施について

- ・平成26年度のモデル事業の実績報告（平成26年12月～平成27年3月）
仕組みとして、北区内の訪問看護ステーションの認定看護師5名が王子・赤羽・滝野川エリアを受け持ち制にしている。そのエリアの利用者が退院してくるといえるときに、エリアマネジャーにつないでコーディネートが始まる。
- ・相談件数は、新規13件。相談方法としては電話相談、その内容は、在宅が6件、入院中が6件、その他が1件。
- ・相談員は、区内の病院から3件、区外から3件の6件。診療所のほうからは、区内から1件、高齢者あんしんセンターから4件で、ケアマネジャー2件。ケアマネジャーからの相談は、今後整理した段階で始める。
- ・広報活動の実施。区外の大学病院等、そのほか、区内の支援診療所、または診療所に19件ほど訪問。その他、高齢者あんしんセンター、北区訪問看護ステーション連絡協議会等。
- ・本事業は、北区医師会が委託を受け、医師会在宅医療部で昨年度立ち上げた。
- ・医師会の中で主治医ネットワークとつくり、調整してチームをつくるところまで相談窓口で行うが、その在宅医の体制づくりも並行して行っている。
- ・今年度、本格実施に向けて、課題は多いが、地域完結型医療を構築するための一つの重要な事業である。引き続きやっていきたい。

8 その他

1) 多職種ネットワーク構築事業協議会

- ・北区医師会は3月から、東京都在宅療養推進基盤整備事業（多職種ネットワーク構築事業）を開始した。

地域でICTを使ったネットワークを構築するために国の基金を東京都が、東京都医師会を通して、各地区医師会に3年間にわたって、その事業を構築する。地域包括ケアシステムの構築というのは、結局はネットワークを構築して人材育成とか情報共有するということに尽きる。

2) 訪問看護ステーション等補助金について

- ・国が区市町村を窓口で、補助金等を設定している。北区はまだまだ介護医療サ

ービスは十分ではないと実感はしているが、整備や実態把握等、各項目で国の補助金の窓口があると思っている。あまり事業所に周知されていないのではないかな。

- ・基金に関しては、東京都に国が示してきている。在宅療養の介護医療連携を進めるところに関しては、活用している。
- ・市区町村が、地域のニーズに合った形で整備をする地域密着型のサービス、グループホームとなど、介護保険の運営協議会で協議をして、例えば公募して事業者を決定した段階で、そういった東京都とか国の補助金を使って整備をするということはしてきた。ただ、整備率というのがあり、それを充足しているかどうかによって、その金額が変わってきたりもする。
- ・一般論としては、特定財源は最大限活用すると考えている。それぞれの事業者の考えているサービスの提供の量、方法など、北区の方針と照らし合わせて、同じ方向だということであれば、それはそれについての財政支援を、区を経由し、申請をしていくというような形になる。

個別具体の話については、なかなか情報自体が得られてないようなものも確かになくはないと思うので、逆に情報提供をしてほしい。

- ・ホームページを注意して見るのは、何か事業を起こそうとか、何か道がないかなと思いたどり着く。例えば北区の在宅ネットの場で、多職種が集まる場所で、それを知るだけで事業展開がもう少しダイナミックになり、何かちょっとした情報を共有するだけで違うので、積極的に情報提供いただけるとありがたい。

3) きたく介護あんしんフェアの在宅療養進める講演会講師案について

- ・優先課題を講座の中に取り入れる方針は、固執されてもいいのではないかな。
- ・魅力的な、日常に、特別な高い目線ではなく、自分たちが暮らす日常の中で何か必要性で、今日必要、明日必要というようなところの話がよい。
- ・医療を提供する側で2回、過去講演会を開いた。岩波映画の「安心して老いるために」があり、監督として、その現場に行ってどう感じたかみたいなこともあわせて、どちらかというとも市民目線で語って伝える講演もよい。

4) 地域医療構想の策定についての情報提供

- ・東京都の動きの情報提供があった。

地域医療構想の策定が、国のほうのガイドラインなども示されて、各都道府県で策定

をしていくということになっている。4月に、その地域医療構想の策定部会というものが設置をされて、6月あたり、厚生労働省から医療に関しての必要量の、現時点のデータなどについて示していくということになる。ただ、今の時点では、区市町村別ではなくて、今の二次医療圏別のデータの提供だというような話があった。

区として在宅医療についての必要量を考えていくというような場面においては、データも必要になると思っている。年度末までに、東京都が地域医療構想計画素案を作成する。

5) 介護職の意見を反映する仕組みについて

介護職の意見が、反映されていないような気がしている。訪問介護と、日ごろ連携しているが、介護ヘルパーの声をどう吸い上げ委員会の中にどう意見が反映されていくかを、検討いただきたい。

- ・介護医療の連携という割には、介護の意見交換がしにくい環境であることは確かだと思う。メンバー構成等、どういう意見の収集をする方向でいくかなど、事務局でご検討いただければと思う。
- ・本日の会議内容について、6月5日までに訂正事項の意見を頂きたい。

9 閉会



在宅介護医療連携推進会議

かわら版 Vol.11

平成27年5月発行

北区健康福祉部介護医療
連携推進・介護予防担当課

☎ 03-3908-9083(高齢福祉課内)

刊行物登録番号:27-2-008

第3回在宅介護医療連携推進会議が開催されました。

去る3月25日、北とぴあカナリアホールにて、平成26年度第3回在宅介護医療連携推進会議（委員長 藤原佳典 健康長寿医療センター研究所研究部長）が開催されました。

【主な内容】

1. 各部会からの報告

- ①医療社会資源調査検討部会
- ②認知症疾患医療介護推進部会
- ③摂食えん下機能支援検討部会
- ④介護医療連携共通シート導入の試行結果について
- ⑤在宅療養協力支援病床確保事業の進捗状況
- ⑥在宅療養相談窓口進捗状況

2. 多職種連携研修会・顔の見える連携会議

- ①多職種連携研修会
- ②顔の見える連携会議

3. 平成26年度 在宅療養支援のあり方と今後の取り組みについて

各部会からの報告を受け、1年間のまとめと今後の方向性について、幅広い視点で意見交換をいたしました。

医療社会資源調査検討部会において、調査した結果を基に、「北区在宅療養あんしんマップ」を作成いたしました。

北区HPからダウンロードすることができます。



今後の在宅介護医療連携推進会議の日程

- 平成27年5月27日 北とぴあ スカイホール 午後2時
- ・平成27年度 各部会の方向性について



講座「第6期介護保険事業計画について」

在宅介護医療連携推進会議委員 道給 昌子 委員



北区第6期介護保険事業計画の重点的な取組について

- ①在宅医療・介護連携の推進
- ②認知症施策の推進
- ③生活支援・介護予防サービスの基盤整備

が位置づけられています。

介護保険料についてですが、基準額は、月額で5438円となる予定です。第5期は4728円でした。同じ制度が続くと、平成32年度には、7051円、平成37年度は8660円になる推計値が出ております。

詳しくは、北区HPに、議事録・講座資料をアップしております。

北区ホームページアドレス：<http://www.city.kita.tokyo.jp/>

第2回顔の見える連携会議開催

地域の介護と医療の顔の見える連携づくりのために、開催いたしました。

合計70名参加！

王子圏域



2月3日
王子生協病院
19名

赤羽圏域



2月20日
東京北医療センター
31名

滝野川圏域



1月28日
飛鳥晴山苑
20名

テーマ

王子圏域：地域の強みと弱みを受けて自分たちは何を考えるか

赤羽圏域：高齢者虐待を考える

滝野川圏域：認知症の高齢者をどのように支えるか

今年度より、地域の病院・施設のご協力により、より身近な会場で実施しました。



在宅介護医療連携推進会議

かわら版 Vol.12

平成27年8月発行

北区健康福祉部介護医療
連携推進・介護予防担当課

☎ 03-3908-9083(高齢福祉課内)

刊行物登録番号:27-2-008

第1回在宅介護医療連携推進会議が開催されました。

去る5月27日、北とぴあスカイホールにて、平成27年度第1回在宅介護医療連携推進会議（委員長 藤原佳典 健康長寿医療センター研究所研究部長）が開催されました。

【主な内容】

- 1、新規委員の紹介
- 2、議事について
「在宅療養の在り方と今後の取組について」案の検討
「介護と医療の連携による地域包括ケアの推進事業」成果報告書案の検討
- 3、報告
①在宅介護医療連携推進会議・検討部会のスケジュールについて
②在宅療養相談窓口のモデル実施について
- 4、その他
①多職種ネットワーク構築検討会
②訪問看護ステーション等補助金について
③きたく介護あんしんフェアの講演会について
④地域医療構想の策定について
⑤介護職の意見反映に関してのしくみについて

【今年度の検討部会】

- ①連携事業評価検討部会（新規）
 - ②在宅療養資源検討部会（新規）
 - ③認知症疾患医療介護推進部会（継続）
 - ④摂食えん下機能支援推進部会（継続）
- ※「介護と医療の連携による地域包括ケアの推進事業」成果報告書を北区ホームページにアップしております。あわせて、ご覧ください。

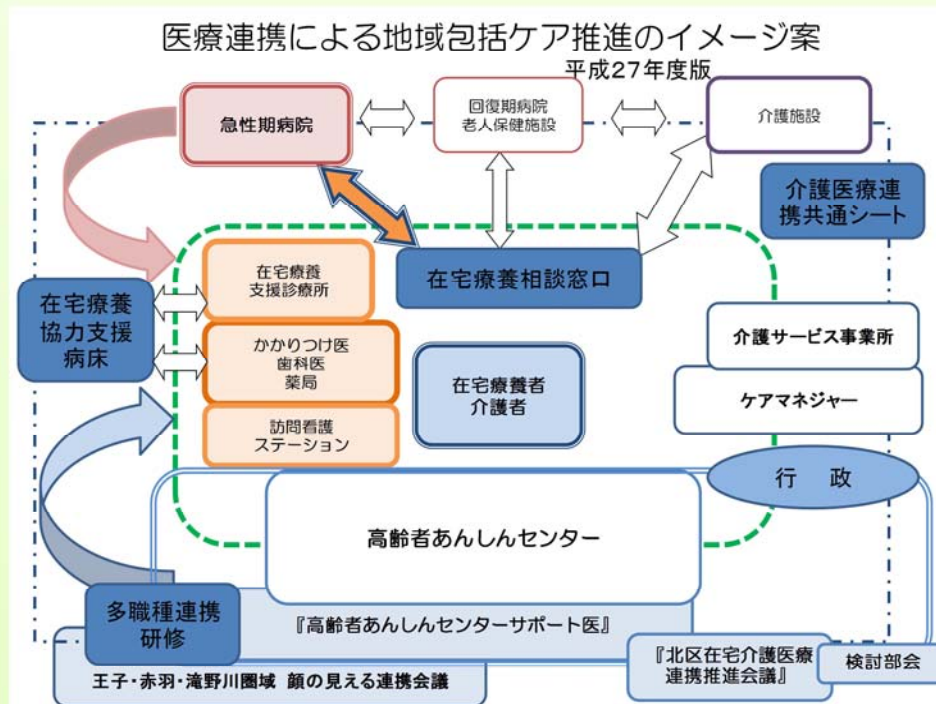


今後の在宅介護医療連携推進会議の日程

- 平成28年2月頃予定
- ・各部会の検討結果について



北区の介護医療連携推進事業について



主な事業

- 介護医療連携共通シート** 介護と医療の関係者の連絡を支援するためのシートです。入院前の生活状況や高齢者の療養状況を情報共有し、的確で迅速なケアにつなげます。
- 在宅療養相談窓口** 区内外病院から退院する際に、在宅療養に必要な医療機関、訪問看護ステーション等を紹介します。
- 在宅療養協力支援病床** 訪問診療・往診を受けている在宅療養高齢者が病態の増悪によって入院が必要と認められた時に、区内病院へ短期間入院することができるしくみです。
- 多職種連携研修会** 医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護ステーション、訪問リハビリテーション、病院地域連携担当、ケアマネジャー、サービス提供責任者、高齢者あんしんセンターが、各一人ずつ出てグループとなり、ワークショップを行います。

詳しくは、北区HPに、議事録・報告書をアップしております。
北区ホームページアドレス：<http://www.city.kita.tokyo.jp/>



高齢者あんしんセンターサポート医事業について

高齢者あんしんセンターサポート医は、27年度より、1名増員しました。北区を5つの圏域にわけて、5名の医師が担当します。(赤羽東・西、王子東・西、滝野川)

平成26年度の実績 訪問・受診相談件数 22件